

鳥取：伯耆大山

- ◆日程 2021年10月30日(土)
- ◆メンバー L: 0T
- ◆天候 晴

10月は天候も落ち着き紅葉も映える良い時期だ。出来るだけ毎週末に登っておきたかった。前週は浅間山だったが上空に寒気が掛かり、下界は晴れていたのに山頂付近では吹雪と強風に見舞われ、山頂直下のシェルター迄で撤退となった。今週末は台風が東に逸れてくれたおかげで全国的に晴予報だ。それならと紅葉が見られそうな西日本の名峰伯耆大山へ、夜行バス往復利用0泊3日の弾丸ツアーを敢行した。バスは満席だが、コロナのせいもあり話し声もなく快適。ただ、首周りがぐらつき、深くは眠れない。米子駅からは大山寺への路線バスに乗り継ぐ。バスには飛行機で来た人、電車で来た人も加わり、満員。人気のほどが伺われる。

登山口から暫くは階段が続き、ほどなく急登に変わる。それでも危険な場所はなく、家族連れも多い。ただ、狭いため追い抜きには注意を要する。つづら折りの折り返し点では見晴らしが効く場所が多く、景色を楽しみながら登れるのは大きな魅力だ。山頂直下の北壁が荒々しい岩肌を見せ、その下には見事な紅葉。日本海も間近に見える。空気ももっと澄んでいけば隠岐の島が見えるはずだ。六合目の避難小屋前はごった返している。そそくさとパスして山頂へ。急いでも帰りのバスは15時過ぎまで無いのだが。



森林限界を超えると視界が開けなだらかな山頂が見え始めた。展望台を兼ねる木道に人が密集している。海を見ると宍道湖まで見える。山頂直下の避難小屋に着いた。中を覗くと風を避けて休憩する人や土産物を買う客でごった返している。もちろん自分もバッジをゲット。

山頂では景色を眺めながらの昼食だ。吹きさらしなので急に体が冷え込んできた。鼻水が風でなびく。防寒着を重ね着してなんとか凌ぐ。十分に堪能し、移動。立入禁止ロープの向こうには剣ヶ峰が痩せ尾根の向こうに見える。噂通りの崩落ぶりだ。下山は谷筋の紅葉した樹林帯を經由し、北壁をじっくり眺めることが出来た。登山口のすぐ前には落ち着いた趣の大神山神社。ゆっくりと門前町を通る。のんびりと買い物と昼食を済ませ、帰りのバスへ。途中、皆生温泉の老舗旅館で日帰り湯。日本海が目の前にあるリゾートだが、閑散としている。客足が戻ることを願いたい。米子では居酒屋で一人乾杯してバスを待った。翌朝、東京着。短い旅だが充実した一日だった。

(記：0T)

CT：大山寺 8:25 - 夏山登山口 8:35 - 六合目避難小屋 9:35 - 伯耆大山(弥山)
10:25/11:25 - 大堰堤 13:05 - 大神山神社 13:25 - 大山寺 13:45